



1. はじめに

図書館などの自習スペースにおいて、クラシック音楽が流れていることに疑問を抱いた。クラシック音楽は作業、課題をするのに適しているのか、他にはどの音が課題をするのに適しているのかを検討する。

先行研究では、音が集中力に及ぼす影響が顕著に表れることはほとんどなく、結果には個人差があるため、正確に検証することは難しいとされている。

また、人間は音の種類だけでなく、音の大きさにより集中力が変わるということが分かっている。

2. 方法

検証期間：2023年1月～2月 放課後

検証対象：六甲アイランド高校 24期生 9名

検証方法：一定時間内に解けた割合を%で出す。

- ①100マス計算(2分)の課題を用意し、音楽なし(周りの音は聴こえる)・速いテンポのクラシック・遅いテンポのクラシック・物理の授業をイヤホンで聴きながらを課題に取り組んでもらう。

- ②一定時間内に解けた問題の割合を出す。

使用した音楽

- 速いテンポのクラシック...天国と地獄
- 遅いテンポのクラシック...カノン
- 講義...物理の授業(梅村先生)



3. 結果

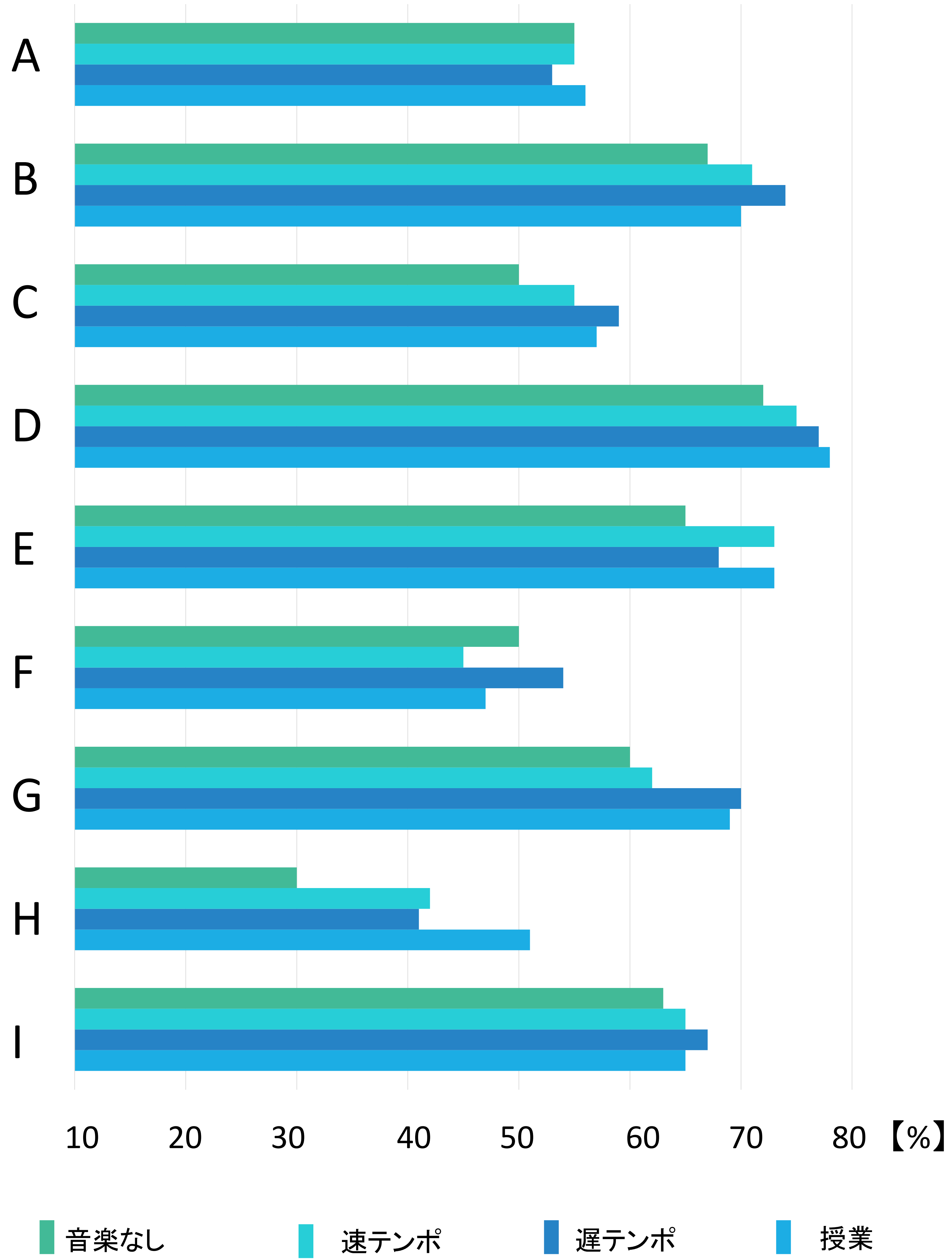


図.1 各音楽での個人の結果

結果にばらつきはあるものの、遅いテンポの音楽を聴いている状態と授業を聴いている状態が全体的にいい結果が出た。

4. 考察

結果として、音楽を聴かない時よりも聴いていた時のほうが**良い結果が出た**ことから、作業中に音楽を聴くのは効果があると思われる。

授業が一番いい結果が出たのは予想外だったが、**速いテンポよりも遅いテンポのほうが良かった**のは予想通りだった。

5. 結論

今回の検証から、作業をする際に音楽を聴くことは効果があることが分かった。なお、速いテンポよりも遅いテンポの方が良いと思われる。

今後の展望として、歌詞ありと歌詞なし、使われる楽器の違いなどにも注目して検証していけたらいいと思う。

6. 参考文献

[1]『環境音が及ぼす成長過程の学習効果について』
[2]『BGMのテンポの違いが作業効率に与える影響』
[3]『図書館利用における教育効果を高める音環境に関する一検討』